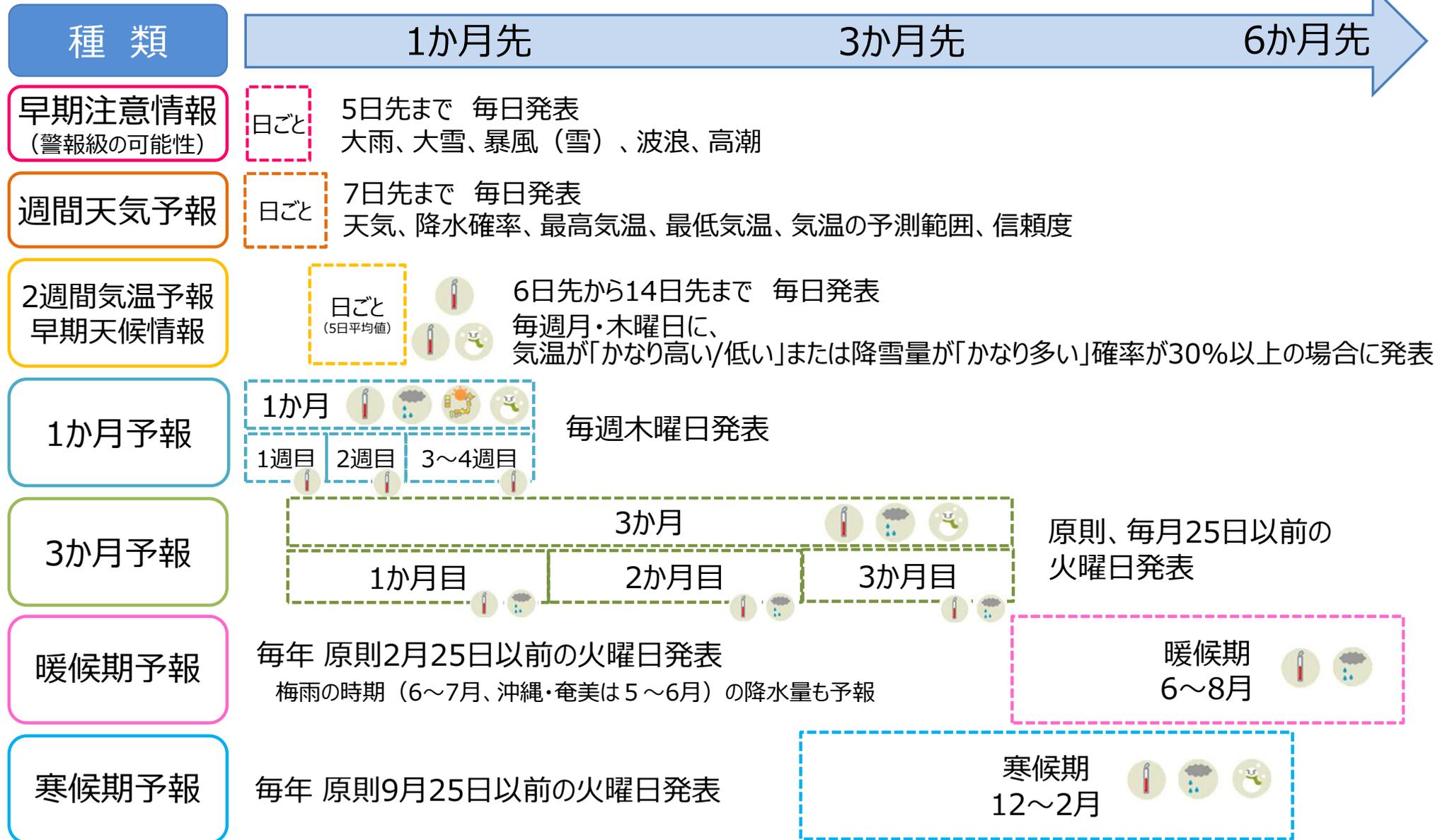


1週間から数か月先の情報の現状

気象庁が発表している1週間から数か月先の情報の種類



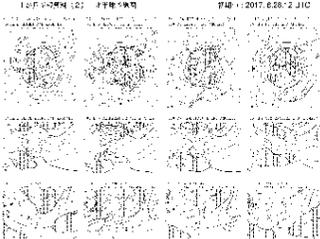
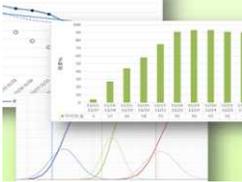
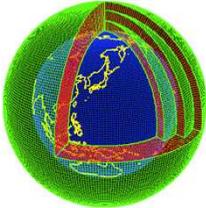
※このほか、発達する低気圧や強い冬型の気圧配置などに対する注意喚起、長期間の高温や少雨など社会的に影響の大きな天候についての解説を、随時「気象情報」で発表。

※2週間気温予報、早期天候情報、1か月・3か月予報、暖・寒候期予報をまとめて季節予報と呼ぶ場合がある。

 気温
  降水量
  日照時間
  降雪量 (冬季日本海側)

気象庁が提供している1週間から数か月先の予測資料の概要

- 気象庁では、発表予報のほかに、利用者がニーズに応じて加工して利用できる予測資料を提供している（ガイダンスや数値予報モデルの詳細は参考資料を参照）。

	発表予報 	予測図 	ガイダンス 確率予測資料 	格子点データ 
週間	◎	◎	○ (日毎)	○ (3時間毎)
2週間	◎	◎	◎(*1) (5日平均)	○ (3時間毎)
1か月	◎	◎	◎(*1) (7, 14, 28日平均)	○ (3時間毎)
3か月 暖候期 寒候期	◎	○	○ (月毎)	○(*2) (日毎)

○ 気象業務支援センターにて提供 ◎ 気象庁ホームページでも提供

(*1) 気象庁ホームページではデータの一部を提供

(*2) 6か月先まで提供。統計データも提供（月毎、3か月毎、アンサンブル平均等）

気象庁の週間天気予報と季節予報に関する主な改善

- 気象庁の週間天気予報と季節予報は、時代とともに統計的手法から数値予報モデルによる予報に変わり、技術の進展に伴って着実に改善してきたが、多様な社会的ニーズに対して、さらに高度化を進める必要がある。

時期	予報	内容（太字は発表予報、細字は数値予報モデルの改善）
1940年代	週間・季節	週間天気予報、長期予報を開始
1955年	週間	概況から日別の予報に変更
1979年	週間	数値予報モデルの予報期間を192時間先まで延長、週間天気予報の期間をカバー
1988～89年	週間	週2回（火・金）から毎日発表に変更、気温の予報（階級）開始
1992年	週間	降水確率を追加
1994年	週間	気温の量的予報開始
1996年	季節	1か月予報に数値予報モデル導入、 旬別から1週目、2週目、3～4週目の予報に変更
2001年	週間	週間アンサンブル予報モデル運用開始
2001年	週間	信頼度を追加
2003年	季節	3か月予報、暖・寒候期予報に数値予報モデル導入
2008年	週間 季節	信頼度の改善（気圧配置の確からしさ→降水の有無の確からしさ） 異常天候早期警戒情報（気温）開始
2010年	季節	3か月予報、暖・寒候期予報に大気海洋結合モデル導入
2010年	週間	気温の誤差幅の改善（誤差幅±〇℃→予測範囲）
2013年	季節	異常天候早期警戒情報（大雪）開始
2014年	季節	1か月予報の発表日前倒し（金曜日→木曜日、予報期間はそのまま）
2019年	季節	2週間気温予報開始（毎日発表） 異常天候早期警戒情報（7日平均）→早期天候情報（5日平均）